

2021年5月28日

報道関係各位

株式会社OKB総研

「新型コロナウイルスによる就職活動・就業意識への影響」調査報告

OKBグループのシンクタンク(株)OKB総研(岐阜県大垣市郭町2-25 社長 五藤義徳)は、標題の調査結果を取りまとめましたのでご案内します。当社では、OKB大垣共立銀行主催の新入社員研修会の受講者を対象に、「新入社員の意識調査」を毎年実施しています。

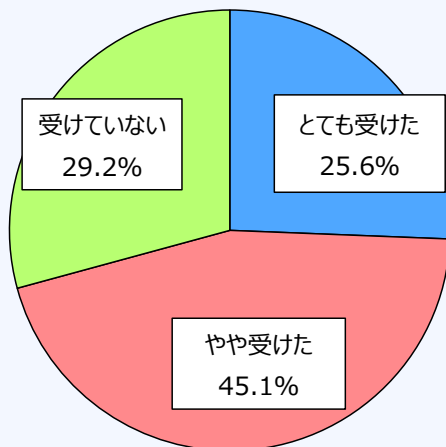
今回は、時事調査として「新型コロナウイルスによる就職活動・就業意識への影響」について調査いたしました。

〈調査結果のポイント〉

■ 7割超の新入社員が就職活動で新型コロナの影響を受けたと回答

「就職活動において新型コロナの影響を受けましたか」と尋ねたところ、「とても受けた」が25.6%、「やや受けた」が45.1%、合わせて7割超の新入社員が就職活動に新型コロナの影響を受けたと回答した。

就職活動への新型コロナの影響



コメント

企業情報の収集への影響

- ・会社・工場見学ができなかった
- ・合同説明会・学内説明会・会社説明会が中止になり、企業や企業情報を探るのが大変だった

募集枠への影響

- ・採用枠・求人票が減っていた
- ・志望企業が採用を中止した

オンライン面接

- ・時間の短縮につながった
- ・実際に会うより話しやすい
- ・オンラインが今後も主流になると感じた
- ・表情が分からないので実際に会う方が話しやすい

- 「業種選択」「職種選択」でおよそ半数、「希望する勤務地」でも4割超が影響を受けたと回答
- 「地元志向が高まった」が約4割、「就活も移動自粛した」が半数超
- 「企業のコロナ対策・業績への影響を意識した」は6割超
- 「通勤や勤務中の感染」は半数超が不安を感じている
- 収入、ライフプラン、勤務先や自身の業務などへの影響について半数超が不安を感じている
- 半数がコロナ終息後も「在宅勤務」、「フレックスタイム」、「短時間勤務制度」を利用したい

※調査結果詳細については次頁以降をご参照下さい。

資料配布場所：大垣市政経済記者クラブ、名古屋金融記者クラブ

【本件に関するお問い合わせ先：(株)OKB総研 調査部 中澤 大輔 Tel.052-564-1520】

調査の概要

調査対象	岐阜県・愛知県・三重県・滋賀県所在の企業・団体の新入社員
調査期間	2021年3月29日～4月20日
調査方法	OKB大垣共立銀行主催の新入社員研修会（WEB,集合型）の受講者(635人)に無記名方式で実施
有効回答者数	277人(有効回答率43.6%)
回答者属性	下表の通り

		全体	男性	女性
有効回答者数		277名	139名	138名
平均年齢		21.5歳	21.6歳	21.4歳
最終学歴	高校卒業	29.6%	29.5%	29.7%
	専門学校卒業	11.2%	11.5%	10.9%
	短期大学卒業	8.7%	5.8%	11.6%
	4年制大学卒業	46.6%	46.8%	46.4%
	その他	4.0%	6.5%	1.4%
居住地	岐阜県	58.1%	58.3%	58.0%
	愛知県	32.1%	33.1%	31.2%
	三重県	1.4%	1.4%	1.4%
	滋賀県	3.6%	4.3%	2.9%
	その他	4.7%	2.9%	6.5%
業種	建設業	14.1%	20.1%	8.0%
	製造業	29.2%	31.7%	26.8%
	卸売業、小売業	13.3%	11.6%	15.2%
	医療・福祉	11.2%	5.0%	17.4%
	サービス業	6.5%	3.6%	9.4%
	その他	25.7%	28.0%	23.2%

(注) 端数を四捨五入しているため、合計は100%にならない場合がある（以下同じ）。

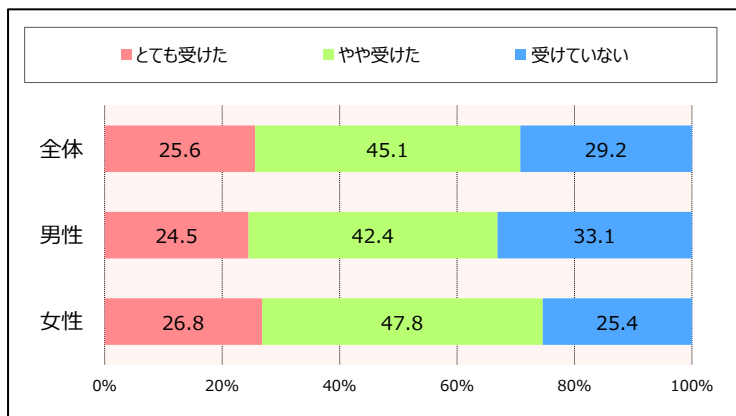
■ 就職活動への新型コロナの影響

7割超の新入社員が就職活動で新型コロナの影響を受けたと回答

「就職活動において新型コロナの影響を受けましたか」と尋ねたところ、「とても受けた」が25.6%、「やや受けた」が45.1%、合わせて7割超の新入社員が就職活動に新型コロナの影響を受けたと回答した。男女別にみると女性のほうが「とても受けた」「やや受けた」の割合が大きい。

自由意見では、会社見学・説明会の中止といった企業情報収集が困難になったというコメントや、採用の中止・採用枠の減少といった企業の募集枠への影響に関するコメントがあった。また、オンライン面接については、「時短や効率化につながった」、「オンラインのほうが話しやすい」といったポジティブなコメントが多かった一方で、「表情が分からないため、実際に会う方が話しやすい」といったコメントもあった。

図表1 就職活動への新型コロナの影響



コメント

企業情報の収集への影響
・会社・工場見学ができなかった
・合同説明会・学内説明会・会社説明会が中止になり、企業や企業情報を探るのが大変だった
募集枠への影響
・採用枠・求人票が減っていた
・志望企業が採用を中止した
オンライン面接
・時間の短縮につながった
・実際に会うより話しやすい
・オンラインが今後も主流になると感じた
・表情が分からないので実際に会う方が話しやすい

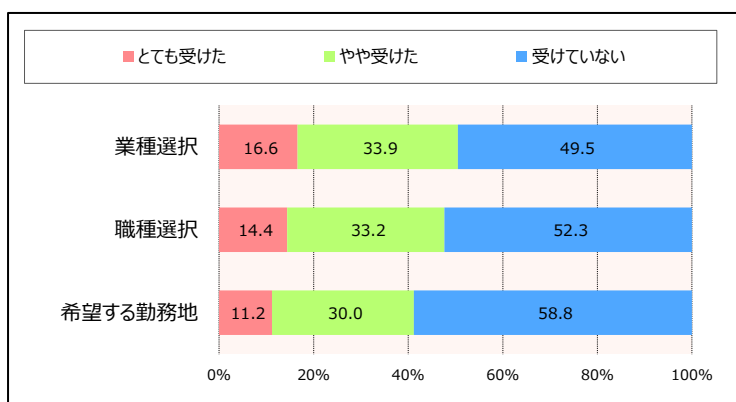
■ 業種・職種の選択、希望する勤務地への影響

業種選択・職種選択でおよそ半数、希望する勤務地にも4割超が影響を受けたと回答

業種・職種の選択、希望する勤務地への影響について尋ねたところ、「とても受けた」、「やや受けた」の合計が、業種選択では50.5%とほぼ半数、職種選択では47.6%と半数近くが影響を受けたと回答している。希望する勤務地についても、同割合が41.2%となっている。コメントからも業種選択や希望する勤務地に影響があったことが確認できる。

「新入社員の意識調査」定例の設問である「就職先の選択基準」においても「勤務地・通勤時間」が大きく低下している。「テレワークに取り組む企業を選択した」というコメントもあり、コロナ禍でオンライン面接やテレワークが浸透したことが、就職活動中の「希望する勤務地」に影響を与えたものと考えられる。

図表2 就職活動への新型コロナの影響



コメント

業種選択
・国際系の業種は厳しかった
・アパレル系はコロナの影響が強いと感じた
・イベント関連は新卒採用が少なかった
職種選択
・コロナの影響で職種を絞った
・コロナ対応が求められる職種では、実習が中止になったり、選考がストップすることもあった
希望する勤務地
・大阪等も選択肢にあったが、コロナを警戒して選択肢から外した
・オンライン面接が多く、遠方に本社をおく会社へ進もうと思うきっかけが持てた

■ 就職活動中の意識変化

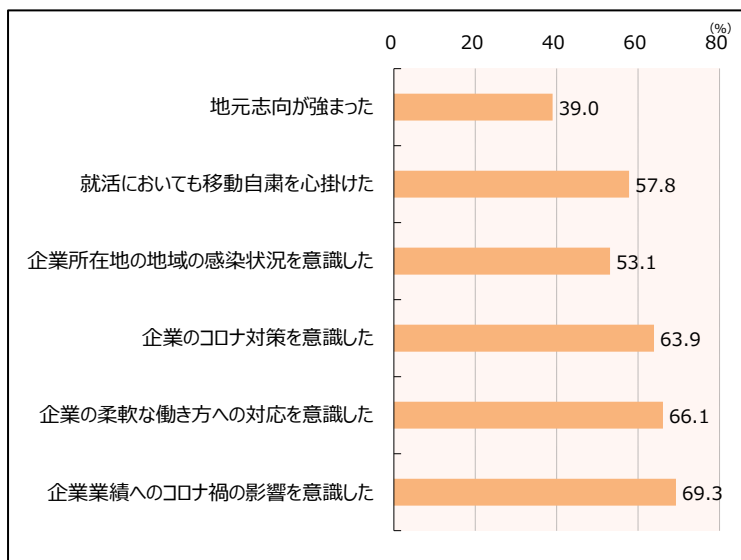
「地元志向が高まった」が約4割、「就活も移動自粛」が半数超、「企業の対策・影響を意識」は6割超

「新型コロナの影響による就職活動中の意識変化」について、各項目があてはまるかどうかを尋ねたところ、「地元志向が強まった」では39.0%が「あてはまる」と回答。新型コロナは就職の地元回帰に一定の影響を与えていることが確認できた。

就活中の移動や地域については、「就活においても移動自粛を心掛けた」で57.8%、「企業所在地の地域の感染状況を意識した」で53.1%が「あてはまる」と回答。意識変化により、実際に就職活動の対象地域や移動を限定したケースが一定程度はあったものと考えられる。

また、企業の対策や業績への影響については、「企業のコロナ対策を意識した」が63.9%、「企業の柔軟な働き方への対応を意識した」が66.1%、「企業業績へのコロナ禍の影響を意識した」が69.3%となった。新型コロナが企業業績や働き方に大きな影響を与える中、企業の状況や対策に関心が高まっており、就職先の選定にも影響を与えたものと思われる。

図表3 新型コロナの影響による就活中の意識変化



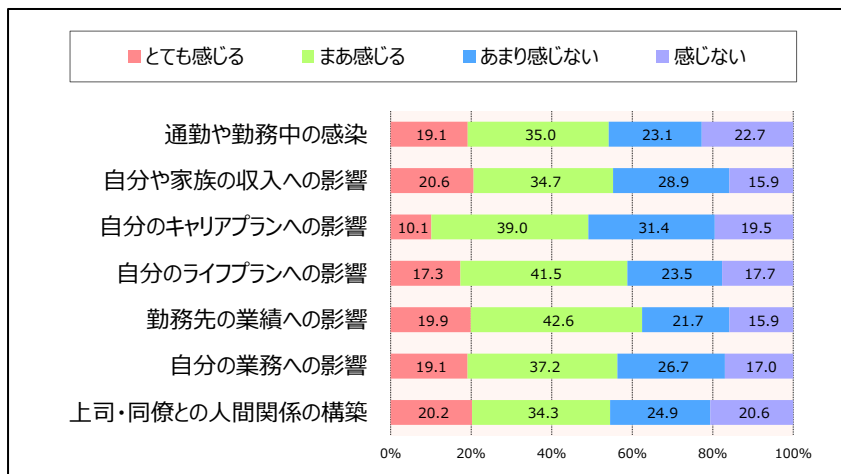
コメント

就職の地元回帰
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元就職した ・ わざわざ都会で就職する必要がないと考えようになった
企業のコロナ対策、柔軟な働き方への対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特殊な環境下でスムーズな対応をしている企業に将来性や安心感があると感じた ・ 働き方が変わる中、時代の変化に企業がどう対応しているか考えるようになった
企業業績への影響
<ul style="list-style-type: none"> ・ 浮き沈みが企業によってかなり違う ・ コロナ禍でも安定している企業を選んだ ・ コロナ禍でも新事業の立ち上げや、業績を上げている企業に目が向くようになった

■ 新型コロナ感染拡大による不安

通勤・勤務中の感染、収入やライフプラン、勤務先・業務への影響など半数超が不安を感じている各項目について、「新型コロナ感染拡大でどの程度不安を感じていますか」と尋ねたところ、「とても感じる」、「まあ感じる」を合わせた回答はいずれの項目も5～6割程度で、同割合が最も高いのは「勤務先の業績への影響」(62.5%)となったが、項目間での大きな差はみられなかった。通勤や勤務中の感染リスク、収入への影響、キャリアプラン・ライフプランへの影響、自身の業務や職場の人間関係など、新入社員の半数程度が幅広い範囲で不安を感じていることが確認できた。特に人間関係については、「人との距離感を感じる」「人との関係づくりが難しくなり、協働に影響がある」といったコメントもあった。

図表4 新型コロナ感染拡大でどの程度不安を感じているか



■ コロナ禍、コロナ終息後で利用したい働き方

およそ半数がコロナ終息後も在宅勤務・フレックスタイム・短時間勤務制度を利用したいと回答

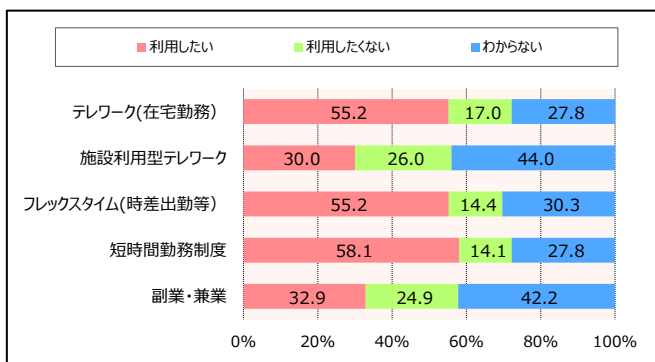
コロナ禍・コロナ終息後において、それぞれの働き方を利用したいかどうか尋ねた。

コロナ禍において、「テレワーク(在宅勤務)」、「フレックスタイム(時差出勤等)」、「短時間勤務制度」で「利用したい」の回答が半数を超えた。「施設利用型テレワーク」、「副業・兼業」については、3割程度が「利用したい」と回答しており、「利用したくない」の回答よりもやや多い程度となっている。

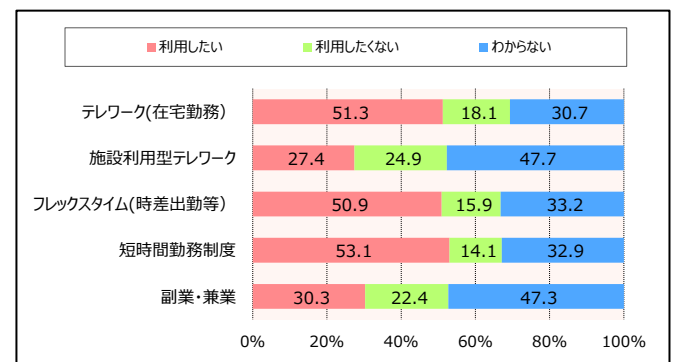
また、コロナ終息後においても、「利用したい」の回答割合はほぼ同率となっている。「テレワークやリモートが主流になると思う」というコメントもあり、新入社員の多くはコロナ禍で多様化した働き方がスタンダードになると考えているようだ。

図表5 利用したい働き方

①コロナ禍



②コロナ終息後



以上